

神栖町における有機ヒ素汚染源 調査についてのお知らせ

発行・編集 環境省 環境リスク評価室、茨城県 環境対策課、神栖町 環境課、日立造船(株)

掘削調査の状況等について

前号でもお知らせしましたように、1 月 14 日に掘削現場で発見されたコンクリート様の塊に点在する白色結晶様の物質の分析を行ったところ約 10,000ppm のジフェニルアルシン酸が検出されました。

その後、コンクリート様の塊の周辺部分について慎重に掘削したところ、1 月 20 日にはコンクリート様の塊は東西 10m × 南北 8m × 厚さ 1m 以上にまで広がっていることが確認されました。

1 月 20 日に専門家からなる「国内における毒ガス弾等に関する総合調査検討会」(座長: 森田昌敏 (独) 国立環境研究所統括研究官) の検討員 7 名が掘削現場を視察しました。引き続き、鹿島セントラルホテルにて第 10 回総合調査検討会が開催され、今後は、更に、当該コンクリート様の塊周辺及びその下部を重点的に調査すること等となりました。具体的には次のようなことを実施します。

- ・確認されたコンクリート様の塊の周辺土壌、地下水について分析を進めます。
- ・コンクリート様の塊の内部及び下部の状況について、連続したコアサンプルを安全に採取して分析する等により把握します。
- ・その後、コンクリート様の塊の下部の状況を詳細に調査するため、当該コン

クリート様の塊を安全に除去します。

・突き出ている杭の劣化状況等を解析することで、可能な限りコンクリート様の塊ができた時期を推定します。

また、これと並行して、地歴情報を引き続き収集し、掘削調査結果との整合性の検証等を行うこととします。

なお、検討会の詳細な資料は環境省のホームページにて公表しております。

近隣の皆様には、引き続き調査にご理解、ご協力宜しくお願い申し上げます。

前記の他、掘削現場周辺等においてボーリング調査等の環境調査を別途行う予定です。

専門家がコンクリート様の塊を視察する様子

平成 17 年 1 月 20 日撮影



地下水モニタリング調査について

20日の検討会において、昨年10月に実施した地下水モニタリング調査の結果が明らかになりました。概要は以下の通りです。

- ・A井戸近傍については、南東部分で濃度の減少が確認されています。
- ・B地区では、前回(昨年8月)の調査結果と比較すると、前回はB地区の南西方向に高濃度汚染が認められていたのに対し、今回(昨年10月)の調査では、調査開始当初のようなB地区中心を頂点とした汚染の分布でした。
- ・AB間では、ほとんどの地点で汚染が検出されませんでした。
- ・ABトラック外縁に設置したモニタリング孔において有機ヒ素は検出されていません。

次回は2月に採水を行う予定です。今後ともモニタリング調査を継続し、地下水の状況を把握していくことが決定されました。

お問い合わせ・御質問は下記の窓口へ御連絡下さい

日立造船 現場事務所	090 - 3350 - 7679
環境省 環境リスク評価室	03 - 5521 - 8262 (http://www.env.go.jp)
茨城県 環境対策課	029 - 301 - 2966 (http://www.pref.ibaraki.jp)
神栖町 環境課	0299 - 90 - 1146 (http://business2.plala.or.jp/kamisu)

なお、関連する情報をお持ちの方は、環境省、茨城県、神栖町へご連絡頂ければ幸いです。

